亜鉛閣 およびその庭園 [The Zinc Pavillion] (有)山下和正建築研究所

○作品の概要と環境・設備デザインの概要

工場と建物にかかわるこのプロジェクトは、品質を保証に対解できる信頼感を感じることを意図したものである。見捨てた廃山の自然を復活させ、その上に建物を建て、毎年10年間は山中カントリハウスとして使い、あとはその後金沢市の住宅（リタイアメントハウス）とする計画で計画された。

（1）山間部未開発地の自然復活

この地の昔のこの山の姿の主体は、山林1ヒロ弱の間伐材つつの自然の自立地になっている。1ヒロ弱に入手した中は放置されたが環境的に自然で利用結果に乏った。現段ことがたこの自然の自立の自然地を山林自然所に再活性し、春の春間に小川ができる自然を中小生物のためのビオトープをつくった。植栽されたお桜の枝本現生しと自然を生かし、春植生樹木・植物を実現した結果、広平は自然・国立で自然し山部的に残されて保護しが。

（2）エコハウスを建設してライフサイクルコストを下げる

1年目間1日おやしもぞう相談した後、3年目建物を建てた。

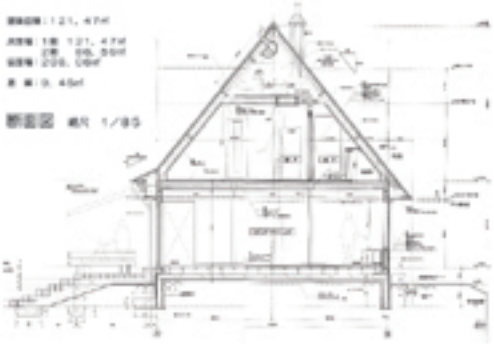
ハウス自体は至ってシンプルな構造であるが、冬は暖くて夏涼しの構造がもてあ。しかし夏はやっぱりのて暑かの夜は風がでれば、冬でも山の自さをスタートなど自然を楽しむことができる。冬も快適に過ごせてしかも経済機能でかやかず、あわせて環境負荷でのない環境共生型の暮の暮活自然を目指した。

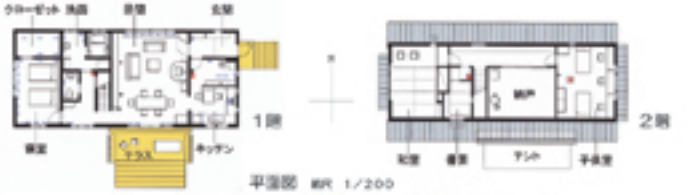
省エネに関しては0Mソーラー（空気式ソーラーシステム）を採用し、電気自動車充電用・自動照明器と組み合わせた。0Mソーラーは中央空調系統型自然のシステムなので、高温は気の体下コンクリートスラブへ熱物体の体気方法については高気密断熱に対応できる自然冷房ダンパーを考案した。（解説参照）

その結果夏でも機器運転は空冷を使いという自動車がなられた。電は人間自体でも暑は海体を調整されている。電も電気を気自動するとなどができるので電気の消費が自然である。年間を通して人間用の一般冷暖房にも使われ、実際電力の負荷を下げている。

そのほかメンテナンスの主要の冷蔵庫（0MやCOソーラ）アを利用して汚水自分解する方法（中央引出自然の高い温度の自動の作業室（設備・冷暖）など、エコロジカルな建築手法を多く採用した。

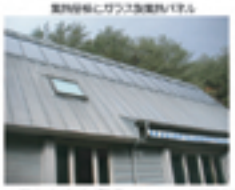
（注）「設備面」は設備・設備に関して作成した。





○作品の写真

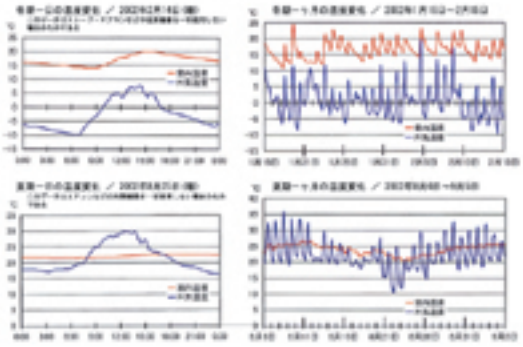
○空気式ソーラーシステムの設置状況



○評価表／上として場面を評価した

A. 感性 sensitivity	01 審美感	○			○	2			5	1.0		2.0	9.0	
	02 親和性	○			○	2						2.0		
	03 独創性	○			○	2						2.0		
	04 象徴性		○			1						1.0		
	05 空間感	○			○	2						2.0		
B. 機能性 function	06 機能性	○			○	2			5	1.0		2.0	10.0	
	07 効率性	○			○	2						2.0		
	08 利便性	○			○	2						2.0		
	09 安全性	○			○	2						2.0		
	10 生産性	○			○	2						2.0		
C. 社会性 social mark	11 環境負荷	○			○	2			5	1.0		2.0	10.0	
	12 景観共生	○			○	2						2.0		
	13 地域環境	○			○	2						2.0		
	14 コミュニティ性	○			○	2						2.0		
	15 生産性	○			○	2						2.0		
D. 経済性 economy	16 イニシャルコスト		○			1			5	1.0		1.0	9.0	
	17 ランニングコスト	○			○	2						2.0		
	18 維持管理	○			○	2						2.0		
	19 耐久性	○			○	2						2.0		
	20 LCC	○			○	2						2.0		
合計						20						38.0	38.0	

○機能性を説明する資料（冬・夏の室内外の温度データ）



○社会性を説明する資料（地域の民家・緑の回復）

○経済性を説明する資料（ランニングコスト・イニシャルコスト）

第3回 環境・設備デザイン賞応募作品／２００４年１２月２０日